

——現在、WRC（ワールド・ラリー・チャンピオンシップ）の日本大会を「フォーラムエイト・ラリージャパン」と名付け、「タイトルパートナー」として支援されています。そのキッカケは？

武井 我が社は道路や橋の設計、自動運転の自動車のための街づくりなどに、VRを活用した事業を展開しています。それとともに、高齢者ドライバーや脳に障害を受けた方の安全運転のためのシミュレーターの開発など、交通安全に関する様々な取り組みを事業化してきました。そんななかで「自動車文化を考える議員連盟」の古屋圭司会長（衆院議員）から、WRCのラリーを日本に誘致する話があったのです。ラリーは、もちろんスピードを競うレースですが、事故を起こせば勝利も何もないわけで、安全運転が基本です。そこで、何かお手伝いできることがあれば……と話を進めたところが、メインスポンサーに手をあげる企業が、なかなかないことがわかり……。トヨタさんはレースに出場しているので、

メインスポンサーにはなれませんか。そこで交渉を続けるうちに我が社が日本でのレースのタイトルパートナー、つまり「冠大会」の「冠企業」となったわけです。

——他にも女子サッカーWEリーグの大宮アルディージャVENTUSの支援もなさってます。

武井 はい。これは災害などに強い持続可能な社会を目指す「レジリエンス協会」というのがあって、そこで地震や津波の被害をVRなどで計測するなどの取り組みが評価され、我が社が表彰されたのですが、そのときに、その会に日本女子サッカー・なでしこジャパンの元監督で、世界一にもなれた佐々木則夫監督が審査員の一人として参加されていたのです。それがきっかけで、我が社の伊藤（裕二氏・フォーラムエイト社長）と対談するなかでアルディージャへの協力を要請されました。佐々木さんも、かなり強力な営業マンでしたが（笑）、WEリーグが開幕することもあり、我が社も女性活躍企業とし

スポーツに 純粋にコミット

武井 千雅子
(株式会社フォーラムエイト 代表取締役副社長)

取材・構成 玉木正之



武井 千雅子 (たけい ちかこ) 1965 (昭和40) 年大阪府大阪市生まれ。1989年フォーラムエイト入社、設計CADソフトウェアビジネスを手がける。3DCAD、FEM解析などへの展開を拡げ、2000年にはVRソフトUC-win/Roadリリースにより、エバンジェリストとしてVRビジネスを展開している。2013年より同社代表取締役副社長を務める。

て「えるぼし認定*」を受けていましたから、そういう方針に添って女性のサッカーチームを支援させてもらうことになりました。
*女性の活躍推進に関する取り組みが優良であるとみなされた企業に与えられる認定制度のこと

——スポーツの側は援助を受けて一定の利益を得ますが、企業としての利益はいかがですか？

武井 分かりません（笑）。会社としては全体の企業活動全体の20%くらいのエネルギーを注いでいると思いますが、そこからどれだけの具体的効果が上がっているかは数字で表せないのだから分かりません。ラリーの場合は「フォーラムエイト・ラリージャパン」とタイトルに名前を出し、それをBSフジの『プライムニュース』やBS-TBSの『報道1930』のテレビCMでも流しています。その直接的効果は分かりませんが、会社の求人には良い影響があるようです。報道番組にCMを出している会社、バックンという知的で人気のあるタレントを使っている会社ということで、イコール安心な会社と判断

されるかどうか分かりませんが、どんな会社か少々分かりにくくても（苦笑）、入社希望の学生たちの親御さんには、子供さんが入社試験を受けても良い会社だと判断してくださっているようです。ラリーを通じて自動車業界と深い関係ができたことは、クルマの走る道路の設計や街づくり事業に関わっている我が社に、様々なメリットがあつたと言えます。

——具体的な金銭的利益というのは？

武井 それは我が社にはないですね。たとえば旅行代理店さんがスポンサーになると、ホテルの手配などを丸投げしてもらえとか、飲料メーカーさんなら会場での飲み物を独占的に納入できるとか、ほかにもコース上に造るゲートや観客席の設営といった仕事を受けられる会社などもあるようですが、直接的なキックバックがまったく存在しない純粋スポンサーというのは、WRCで我が社フォーラムエイトだけだったそうです。ただ、そういう姿勢は自治体には好印象を与えたようで、来年以降は愛知県の豊

田市、岐阜県の恵那市等が「豊田まちづくり株式会社」を作り、自治体が主催者となって運営することになりました。もちろん我が社は、これまで通りタイトルパートナーとして協力を続けていただきます。まだ公表されていない計画ですが、来年からは日本大会だけでなく、今年で言えば全13大会になりますが、ヨーロッパなどでのすべての大会のタイトルパートナーになることも計画しています。さらに再来年にはEVによるラリーも実現したいと思いますし、我が社としてはクルマ社会が広がってきたウズベキスタンやタジキスタンといった国々にも、運転シミュレーターを提供していきたい。そういった事業にラリーがどう関わっていくのか、まだ分かりませんが、面白いかもしれませんよ。

——ラリー以外の別のスポーツへの展開も？

武井 来シーズンから、メジャーリーグの大谷選手出場試合の球場に、英語とカタカナでフォーラムエイトの広告を出します。ゴルフにもいくつか宣伝は

出していて、それは会社の経営者の方々に見られることを期待しているのですが、これも直接的な効果のほどは分かりません。最近では、バスケットボールなどで、チームそのものを買い取りませんか？といった話を持ち込まれますが、私は性格が恐がりで（笑）、金額が何十億というような単位の話になるとビビりますね。伊藤社長はいろいろと前向きではあるようですが……ただ、プロ野球やどんなスポーツでも、我が社の技術を使って協力し合うような支援の仕方なら積極的に考えてみたいですね。今年のラリージャパンでも会場へ来られない観客のために、豊田スタジアムにメタバースを提供してチームの様子をメタバース空間で体験してもらうようにしましたが、そういうやり方はいろんなスポーツに発展的に使えるし、協力できると思います。

——支援という形でスポーツの世界と交流されて、不満とか改善を感じられたことはありませんか？

武井 WRCでは肖像権や映像権など、様々な権利

が錯綜していて写真1枚使用するにも、スポンサー企業ですら許可が下りないことがありました。そういうことが精神的ストレスにも感じられることもありましたが、我々は新参者ですからスポーツ業界のことをもつと勉強して意見を言うようにしていきたいと思っています。ただ女子サッカーの場合で言うと、まだまだおカネが足りないというか、環境が劣悪なままの状態が続いていますね。練習用のグラウンドを借りるのにも苦労したり、選手はアルバイトをしながら試合に出たり……。プロのリーグを開始するといったん決めたなら、各チームに経営努力を任せるのではなく、器を頑丈にするとでも言えば良いのか……。リーグとしてもつと資金を集める努力をしてほしいと思いますね。

——日本のスポーツは企業スポーツ中心で、リーグ全体やスポーツ全体の発展より、強い一チームが牽引するカタチになりがちなところがあります。

武井 女子サッカーにもそのような「一強主義」の

——そのようななかで企業がスポーツと関わる一番の理由は何だと言えるでしょう？

武井 それは……。スポーツが楽しいから、ですよ。スポンサーになると、そのスポーツを応援するようになるし、楽しくなる。ラリーも見に行くと楽しいですよ。大騒ぎしながら応援する。日本人ならトヨタを応援したいし、韓国人は現代^{ヒョンダイ}、アメリカ人はフォードを応援する……。けど現代にはカッコいいドライバーがいる（笑）。いろんなことをきっかけにラリーのことをいろいろ知るようになって、時速200キロ前後で曲がりくねった道を走らせているドライバーの横に座ってる道案内役のコドライバーの存在を知ったりしていくと、ますますラリーというスポーツが楽しく、面白くなってくる。

——優勝候補のフォードのベテランのコドライバーは、女性で数学の先生だそうですね。

武井 そうそう、いろいろ分かってくると、ラリーが純粋に楽しくなってきました。女子サッカーも同じ。

傾向が感じられますが、企業スポーツでは公的な支援を受け難いですね。WRCの人と付き合うと日本のスポーツ界のおかしさが分かります。幸いWRCは先程お話したように、日本の大会も地方自治体連合の主催で開催されるようになりますが、日本社会はスポーツ界だけでなく、企業社会でも「一強主義」に似たところがあつて、たとえばいくらIT産業でいろんな企業が成長しても、大手企業しか入札に参加できないベンダー・ロックインというシステムがあります。たしかに新参者の耳慣れない新興企業に任せて失敗したくないという気持ちも分からないでもないですが、欧米にはそんなシステムは無く、英国などは逆に新興企業や中小企業のみが参加できる入札のシステムもあります。一方日本の社会は、古い大手企業が中心で、中小企業が発展しにくいとも言えます。が、そんななかで我々中小企業がスポーツへの支援とともに名前を売って、産業界でも台頭してゆくという道筋はあるかもしれませんね。

大宮アルディージャはナカナカ勝てないけれど（苦笑）、スポンサーになつて、頑張ってる選手たちを応援して、サッカーというスポーツのことが分かってくると、楽しく面白くなってくる。

——茨城県は鹿島アントラーズが生まれて以来、若者の多くがアントラーズの応援をするようになり、暴走族が減ったという話も、初代チェアマンの川淵三郎さんから聞いたことがあります。

武井 ラリー人気が高いヨーロッパでは、暴走族なんて存在しないそうですよ。ラリーのほうが面白いから。もちろんスポーツは強制するモノではないでしょうから、我が社の社員にも強制的に見るとか、応援しろと言うつもりはありません。会社の仕事としてラリーや女子サッカーに関わることはあつても、好きになるかどうかは、その社員の自由、勝手です。我が社はあくまでもスポーツの持つ純粋な素晴らしさ、爽やかさにコミットしていきたい。それが結果的に我が社にとつてもプラスになると考えています。